

授業科目名・形態	病態治療学Ⅱ (脳神経外科)	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	高橋 敏夫	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

中枢神経疾患についての解剖・生理・病態治療学的な知識を深める。更に、脳神経外科の治療対象となる中枢性疾患の特長、看護するためのポイントとその理論的背景を学び、医療現場での応用力を養うことを主眼とする。

【到達目標】

- ① 中枢神経系の構造と機能が理解できる。 ② 脳神経疾患とその治療について理解できる。
 ③ バイタルサインについて理解できる ④ 各疾患の看護のポイントを理解できる。

【授業計画・内容】

第1回 脳神経外科看護の基礎知識

中枢神経系の解剖と病態生理を理解する。(意識障害、頭蓋内圧、脳ヘルニア、神経症候、脳脊髄液) 脳神経疾患の看護の基礎を身につける。

第2回 脳血管障害

脳血管障害とは何かを理解する。(閉塞性脳疾患、出血性脳疾患) 脳血管障害の看護のポイントを学ぶ。(刻々と変化する病態への理解を深める)

第3回 頭部外傷・機能的脳疾患

頭部外傷に伴う脳損傷の病態を理解する。頭部外傷後の合併症の病態、看護のポイントを学ぶ。機能的脳疾患の症候と治療について理解を深める。

第4回 脳腫瘍と中枢神経系感染症

脳腫瘍に共通する病態生理、代表的な脳腫瘍の特長を理解する。脳腫瘍の際に現れる特徴的な症候と看護のポイントを学ぶ。

第5回 先天性奇形・その他

中枢神経系の先天性奇形の発生機序と代表的な奇形の特長を学ぶ。医療事故を回避するために必要な考え方を事例から学ぶ。

【授業実施方法】

プロジェクターを使用した講義形式で行う。当日、スライドと同等の講義資料を配付します。

【授業準備】

3日(3回)に分けた集中講義の形で行いますので、各講義の間隔が空きます。内容を十分に理解するには、講義の前に、前回の講義(特に第1回の講義内容)について復習しておく必要があります。

【主な関連する科目】

解剖学、神経内科学、小児科学、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

特に教科書の指定はありません。参考図書としては「系統看護学講座(専門11)及び(別巻2)」、ビジュアルノート(MEDIC MECIA)等が、良いかも知れません。

【参考文献】 特になし

【成績評価方法】

- 1) 筆記試験 90% 2) 授業態度・出席状況 10% により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

丸暗記するのではなく、個々の疾患の病態を理解することに主眼を置いて下さい。臨床現場で実際に役立つ考え方の基本“何故そうなるのか”を身につけ、知識だけではなく応用力を高めましょう。